

令和6年9月5日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 直通：257-6972

令和6年度病害虫発生予報第6号について

今後発生が予想される大豆、果樹、野菜の病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 9月上旬～9月下旬

2 予報内容

大豆

葉焼病の発生は**やや多**と予想される。病原菌は風雨によって飛散する。発病を認めたら直ちに防除する。

フタスジヒメハムシの発生は**多**と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

カメムシ類の発生は**多**と予想される。子実肥大期の防除を徹底する。

ハスモンヨトウの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する

果樹

カキ炭疽病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

果樹カメムシ類の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

野菜・花き

軟腐病の発生は**多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

ネギ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。予防防除を徹底する。

アザミウマ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、コナガの発生は**多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ネギハモグリバエ、アブラムシ類、の発生は**やや多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。